



現在の風景



募集中

昭和60年代ごろまでの昔の写真を募集しています。提供いただける方は、役場秘書広報課広報広聴係 ☎ (295)2112 内線332までご連絡ください。



高福寺橋から北側の風景
昭和30年代前半（木村明さん提供）

上町保育園北側、毛呂川にかかる高福寺橋から高福寺方面を撮影した写真です。当時は、高福寺の屋根を確認することができますが、現在は、屋根が見えなくなるほどに木が大きく成長しました。なお、道路は舗装されていますが、今もなお、当時の雰囲気が残っています。

徒然歳時記

うちわ
団扇



夏の風物詩のひとつである「うちわ」。花火大会やお祭には欠かせない道具ですが、その歴史は古く、古代中国から日本に伝わりました。飛鳥時代には日本にあったといわれており、日本最古の歌集『万葉集』のなかにも、うちわについて記した和歌が登場します。

うちわが海外で生まれたのに対し、扇子はもともと日本で発明されました。8世紀、うちわを、持ち運びできるようにしようと作られたものが扇子でした。当時の扇子は、木でできた札を束ねて紐で繫いだもので、あおぐという役割以外にも、メモ帳にしたり、和歌を書いて贈ったりするなどコミュニケーションの道具として使われていたそうです。貴族たちが、顔を隠すために用いたともいわれています。

うちわが大衆にも広まったのは江戸時代です。木版技術が向上し、うちわの大量生産が可能になり、人びとは、炊事や虫追いなど生活の道具としてうちわを使い、浮世絵に描かれているような美しい絵柄を楽しむようになりました。熊谷市のとある料亭では、お店を利用したお客さんに、江戸から買い入れた老舗の渋うちわを配り、大変好評を博したという話もあります。当時、うちわが生活必需品として広く人びとから重宝されていたといえます。

絵柄や形の美しさばかりでなく、最近では、あおぐと香りがあったり、虫除け効果のあるうちわもあります。この夏、お気に入りの一枚を探してみたいでしょうか。



4月に就職し、秘書広報課に配属され、早いもので3か月が経ちました。6月には、泉野小学校と川角小学校の田植えを取材しました。元気いっぱいの子どもの写真を撮るのがとても楽しく、私も子どもたちから元気もらった気がしました。仕事はまだまだ新しいことの連続ですが、日々成長していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。(N)

わがやのアイドル



今井 奈々未ちゃん
(5歳6か月)

さやか
沙耶佳ちゃん
(3歳3か月)

奈々未は恥ずかしがりやのお姫さま♡
最近自転車に乗れるようになりました。沙耶佳は元気いっぱい負けず嫌いのワンパク娘♡
二人とも外遊びが大好きです。毎日にぎやかで楽しい我が家です。



神谷 陽翔くん
(2歳5か月)

はるは、重機と電車が大好きなとても活発な子です。少しずつお話も上手になってきました。秋には、お兄ちゃんだね。下の子の面倒をみれる優しいお兄ちゃんになってネ♡

■ 秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。
申・問 役場秘書広報課 ☎ (295) 2112 内線 332

人口 36,685 人 (-21 人)
【男 18,256 人 (-15 人) 女 18,429 人 (-6 人)】
世帯 15,757 戸 (-2 戸)
※平成 22 年 7 月 1 日現在 (カッコ) 内は前月比

口広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。